



いとう のりあき ひろみ
伊藤 憲昭さん(66歳) 弘美さん(63歳) 弥富市松名

国産切花の魅力伝えたい

360坪の農業用ハウスで切花農家を営む伊藤さん。夫婦二人三脚でカーネーションを主体に、季節に合わせてスターチスや小菊、仏花、墓花などの切花を菜々耕房（生産者名・憲昭さん）とAコープとびしま店（生産者名・弘美さん）に出荷しています。また、5畝ほどの面積でイチジクも栽培しており、夏に出荷を行っています。

伊藤さんは34年前に就農し、菜々耕房へは新規オープンした17年前から出荷を続けています。母の日やお彼岸、お盆、年末などの繁忙期には、多い時で5〜6千本の出荷作業に追われるそうです。

栽培のこだわりは、時代のニーズに合わせた花を育てることだと話す伊藤さん。「今まで手掛けてきたものだけに頼らず、消費者の好みに柔軟に対応することが何より大切だと考えています。そのため、これまで様々な品種の花を育ててきましたが、天候に大きく左右されることに加えて、それぞれに個性があり、なかなか自分のイメージ通りに育たないことも多いです。農業は一生勉強ですね」と笑顔で語ります。

産直の魅力について伊藤さんは

「買っていただいた方から『伊藤さんのカーネーション、すごく長持ちしたよ』と声をかけていただけるともあり、それがとても嬉しいです。真心を込めて育てた花を選んでいただける喜びを励みに頑張っています」と話します。

今後の目標については「34年前の就農当初はこの地域に10軒ほどあったカーネーション農家も、今では私たちを合わせて3軒にまで減ってしまいましたが、これからは夫婦二人で力を合わせて、皆さんから名前を選んでいただけるよう、良いものを作り続けたいです」と意気込みます。

最後に消費者に向けて「カーネーションをはじめとして切花業界では海外からの輸入品が年々増えており、国産の消費が落ち込んでいます。さらに、生花から造花に移行していくような流れもありますが、国産切花の魅力が一人でも多くの方に伝わるように、信頼いただけるものを自信を持ってお届けしていきますので、ぜひ手にと取っていただけたら嬉しいです」とメッセージをいただきました。

